

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立牛津中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	『確かな学力の育成』では、牛津中の学習スタイルが定着しており、すべての教科において教師の指導法に対して9割を超える生徒がわかりやすく、教育機器を効果的に利用して工夫されていると感じている。また、立腰の取り組みや課題学習・提出物を確実に実行する取り組みも徹底されており成果が上がっている。しかし、依然として家庭学習の習慣が身につけておらず、毎日1時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は、半数を超える程度である。さらに、読書の習慣が不十分であり、図書館利用者が伸びておらず、読解力向上のためにも今後力を入れる点と考える。本年度設定した『志を高める教育』においては、特活の時間等を利用して自分の将来を見つめ進路を考える学習を行い、将来の夢や目標をもつことができたと思える生徒が増えている。『豊かな心の育成』では、Q-U診断テストの結果を生かした集団づくりに取り組んだ結果、生徒・保護者ともに9割近くが「安心して学校生活ができる」と答えており、道徳や人権教育の授業を通して互いを認め合い、心を育て自己肯定感を高めるように教師が活動を行った結果、8割以上の生徒・保護者は「成果が見られる」と答えている。生徒全体としては向上しているが、相手の気持ちが十分に理解できていない生徒への指導が今後の課題である。『健やかな体の育成』では、部活動や体育行事を通して健康や体力づくりの重要性についての指導が十分に行われていると感じている生徒・保護者が8割を大きく超えている。また、食育やいのちの教育に関する取り組みにおいても生徒・保護者において、9割を超える高い評価を受けている。その反面、「睡眠時間や生活のリズムを考えた生活を送る」という項目で、依然として夜更かしをする生徒がいる点を改善していく必要がある。『業務改善・教職員の働き方改革の推進』において確実に改善しているが、今後も継続して働きやすい環境づくりに取り組んでいきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る ② 豊かな人間性の育成：支持的風土を持つ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修で授業参観および相互参観授業を全員が行い、成果指標の達成を目指す。	A	・全職員による相互参観授業や、発表の仕方・聞き方の共通理解により、一貫性のある指導につなげることができた。 ・事前指導→テスト→事後指導の流れを実践し、生徒の主体的な学びの育成に努めることができた。
	○学習内容の定着に向けて、分かりやすい授業の実践	○「授業が分かる」と答える生徒が85%以上	・授業づくりのステップ1・2・3を用いた牛津中授業スタイルの確立を図る。 ・「まとめ」「振り返り」の定着を図り、「振り返りシート」を工夫する。	A	・約95%の生徒が「わかりやすい」「めあてを意識しながら授業に取り組んでいる」と答えた。 ・学習状況調査では、前年度より無解答率が減少しており、生徒の学習に取り組む姿勢が変化してきている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安心して生活できる学級集団づくりを推進し、QU実施の2回目は各学級の学級生活満足率の割合を5ポイント以上増やす	・年2回のQU実施とその検証に基づいた安心して生活できる学級集団づくりを目指す。	A	・QUアンケートの結果は、学級生活の満足度が減少した学級もみられた。学年ごとに分析を行い、対応した。 ・アンケートでは、約89%の生徒が望ましい学年・学級集団づくりをされていると答え、保護者も約82%が同じ回答だった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒の変容を常に観察し、計画的な調査等(月に1回)を実施する	・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させることで情報を共有し、職員研修等で職員のスキルアップを図り、いじめの未然防止に努める。	A	・毎月の生活アンケートにより、小さなサインを見逃さずに対応することができた。生徒指導部会と生徒支援部会の開催も欠かさず行うことができ、情報共有ができた。
	◎支持的風土に根ざした望ましい学級集団づくりの推進	○アンケートで、「思いやり」「感謝」「自己肯定感が高い」生徒の割合を75%以上	・全職員で授業を行い、人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い支えある集団づくりの推進を行う。	A	・約92%の生徒が道徳などの授業を通して「思いやり」「感謝」について考えられたと答えた。学年ごとに、毎週の道徳の授業を工夫して取り組めた成果と考えられる。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒75%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな命を育むための食に対する知識の習得と意識の向上を図る。	A	・給食時間の楽しい食事のあり方はコロナ感染対策により、グループでの食事ができなかった。しかし、衛生面には配慮して準備ができた。また、My弁当Dayの取り組みを通して食の大切さに気づき生徒の食に対する意識が高まった。
	○健康、安全、命の教育に対する意識の向上	○「命の教育」に関する講演会を実施し、自他の生命を尊重する態度を育てる。	・講演会では、グループワークを確実にを行い、主体的な学びを促進する。	A	・グループワークは感染防止のためできなかったが、各学年で学びの時間を取ることができた。また、1年生は東日本大震災から10年の節目に、記憶を未来に繋ぎ、安全に過ごすための授業を行った。感染症の予防の取り組みから、健康に対する意識の高揚が見られた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動の活動時間や活動内容の適正化を図るとともに、定時退勤推進日の設定など、時間外自発勤務の削減を図る。	B	・部活動休業日については、土日のどちらかを休み、平日を1日休むように、9割の部活動ができていた。定時退勤日についてはほとんどの職員が守ることができていたが、極一部の職員の時間外自発勤務の削減ができなかった。
	○チームを意識した効率的な業務の推進	○効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり、前年度比10%削減する。	・チームによる組織的な対応を進めることで負担軽減を図るとともに、風通しのよい職場環境づくりを進める。	B	・チームとしての対応ができていたが、その結果、一部の職員に仕事量が偏ることになった。 ・時間外自発勤務は前年度と比べて減ってきている。今後も勤務時間を意識して働きたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図る	○教職員の共通理解・共通実践により支援を要する生徒の進路希望に添えるように努める。	・支援を要する生徒を含めた対応・支援体制の組織化を図るため、コーディネーターを中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣を定期的に行い、保護者との連携を図るとともに専門家からの助言を支援に生かす。	B	・研修会5回実施。 ・ケース会議は基本的には学年ごとに、生徒一人に対し複数回実施。 ・コーディネーターやSC、SSW等との連携で細やかな支援体制をとることができた。 ・巡回相談や特別支援教育の校内研修への講師招聘など、専門家の助言を受ける機会を設けた。 ・主としてSCのアドバイスを受けて、保護者との連携を図った。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	教職員相互の連携やチームによる対応はできていた。特に家庭学習等の取り組みについては、全校で提出日を決めて、提出されることで徹底を図った。これを継続することで基礎的な知識の定着と家庭学習の習慣づけを行いたい。さらに、一人一人の指導力の向上を図ることで、偏りのある業務量の解消につなげたい。「支持的風土に根ざした望ましい学級集団づくり」については、92%の生徒が道徳等の授業を通して、「思いやり」や「感謝」について考えられたと答えた。全職員で計画的に、工夫して授業を行った成果がみられる。ただし、相手の気持ちを十分に考えずに発言する生徒への指導を今後、行っていきたい。
----------------	--